

出題範囲等

国語

◆ 第1学年

※以下の題材を用いて、内容を正確に理解したり、適切に表現したりすることについて出題します。

《取り扱う題材》

- 漢字の読み・書き、言葉の特徴やきまり、伝統的な言語文化に関すること
- 文学的な文章、説明的な文章、古典など
- 児童・生徒が作成したもの、その他図表等を含むさまざまな種類の資料
- 書写（楷書）に関すること

◆ 第2学年

※以下の題材を用いて、内容を正確に理解したり、適切に表現したりすることについて出題します。

《取り扱う題材》

- 漢字の読み・書き、言葉の特徴やきまり、伝統的な言語文化に関すること
- 文学的な文章、説明的な文章、古典など
- 児童・生徒が作成したもの、その他図表等を含むさまざまな種類の資料
- 書写（行書）に関すること

社会（第2学年のみ）

・社会はA問題、B問題の2種類あり、各学校がどちらかを選択します。

◆ A問題 《出題範囲を取り扱うページ》

< 地理的分野 >

発行者	地理的分野	ページ
東京書籍	第2章 世界から見た日本の姿	P.156～P.214
	第3章 日本の諸地域	
教育出版	第2章 世界からみた日本のすがた	P.150～P.199
帝国書院	第2章 世界と比べた日本の地域的特色	P.150～P.209
	第3章 日本の諸地域	
日本文教出版	第2章 世界からみた日本の姿	P.150～P.205
	第3章 日本の諸地域	

< 地図 >

発行者	目次	ページ
東京書籍	統計	P.156～P.165
帝国書院	統計資料	P.156～P.164

< 歴史的分野 >

発行者	歴史的分野	ページ
東京書籍	第4章 近世の日本	P.97～P.131
		P.134～P.140
教育出版	第4章 近世の日本と世界	P.87～P.130
帝国書院	第4部 武家政権の展開と世界の動き	P.86～P.137
日本文教出版	第4編 近世の日本	P.96～P.145
育鵬社	第3章 近世の日本	P.97～P.135
		P.140～P.150

◆ B問題 《出題範囲を取り扱うページ》

< 地理的分野 >

発行者	地理的分野	ページ
東京書籍	第1章 日本の姿	P.127～P.214
	第2章 世界から見た日本の姿	
	第3章 日本の諸地域	
教育出版	第1章 日本の地域構成	P.125～P.199
	第2章 世界からみた日本のすがた	
	第3章 日本の諸地域	
帝国書院	第1章 日本の姿	P.119～P.209
	第2章 世界と比べた日本の地域的特色	
	第3章 日本の諸地域	
日本文教出版	第1章 日本の姿	P.113～P.205
	第2章 世界からみた日本の姿	
	第3章 日本の諸地域	

< 歴史的分野 >

発行者	歴史的分野	ページ
東京書籍	第4章 近世の日本	P.120～P.131
		P.134～P.140
教育出版	第4章 近世の日本と世界	P.114～P.130
帝国書院	第4部 武家政権の展開と世界の動き	P.118～P.137
日本文教出版	第4編 近世の日本	P.128～P.145
育鵬社	第3章 近世の日本	P.124～P.135
		P.140～P.150

< 地図 >

発行者	目次	ページ
東京書籍	統計	P.156～P.165
帝国書院	統計資料	P.156～P.164

※A・B問題とも上記以外のページにある資料（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含みます。

※A・B問題とも<地図>については、該当ページのうち<地理的分野>の教科書の出題範囲に関連する内容とします。

数学

◆ 第1学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名		ページ
東京書籍	1章 正負の数	3章 方程式	P.8～P.133
	2章 文字と式	4章 比例と反比例	
移行用補助教材	整数の性質		P.2～P.5
学校図書	1章 正の数・負の数	3章 1次方程式	P.12～P.148
	2章 文字式	4章 比例と反比例	
移行用補助教材	素因数分解		P.2～P.5
教育出版	1章 正の数、負の数	3章 方程式	P.9～P.150
	2章 文字と式	4章 比例と反比例	
移行用補助教材	素因数分解		P.2～P.4
啓林館	1章 正の数・負の数	3章 方程式	P.12～P.127
	2章 文字の式	4章 変化と対応	
移行用補助教材	素数の積で表すこと		P.2～P.3
数研出版	第1章 正の数と負の数	第3章 1次方程式	P.12～P.132
	第2章 文字と式	第4章 比例と反比例	
移行用補助教材	素因数分解		P.2～P.3
日本文教出版	1章 正の数と負の数	3章 方程式	P.10～P.149
	2章 文字と式	4章 比例と反比例	
移行用補助教材	素因数分解		P.2～P.3

◆ 第2学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	1章 式の計算	P.8～P.106
	2章 連立方程式	
	3章 1次関数	
	4章 平行と合同	
学校図書	1章 式の計算	P.12～P.119
	2章 連立方程式	
	3章 1次関数	
	4章 図形の性質の調べ方	
教育出版	1章 式の計算	P.9～P.119
	2章 連立方程式	
	3章 1次関数	
	4章 平行と合同	
啓林館	1章 式の計算	P.12～P.102
	2章 連立方程式	
	3章 一次関数	
	4章 図形の調べ方	
数研出版	第1章 式の計算	P.14～P.109
	第2章 連立方程式	
	第3章 1次関数	
	第4章 図形の性質と合同	
日本文教出版	1章 式の計算	P.10～P.114
	2章 連立方程式	
	3章 1次関数	
	4章 図形の性質と合同	

※第1・2学年とも上記以外のページにある資料（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含みます。

理科（第2学年のみ）

◆ 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	単元1 化学変化と原子・分子	P.10～P.83
	単元2 動物の生活と生物の変遷	P.84～P.132 P.144～P.153
大日本図書	単元1 化学変化と原子・分子	P.7～P.80
	単元2 動物の生活と生物の進化	P.81～P.141 P.152～P.158
学校図書	A-3 化学変化と原子・分子	P.5～P.64
	B-3 動物の世界	P.141～P.200 P.207 P.210～P.216
啓林館	生命 動物の生活と生物の進化	P.2～P.51 P.60～P.63
	物質 化学変化と原子・分子	P.118～P.181

※上記以外のページにある資料（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含みます。

◆ 第1学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Hi, English! Unit 0～7 Daily Scene 3	P.4～P.83
開隆堂	Let's Start PROGRAM 1～7 英語のしくみ ②	P.6～P.77
学校図書	Pre-lesson Let's Start Lesson 1～6 Talking Time	P.4～P.79
三省堂	Get Ready Lesson 1～6 Project ②	P.6～P.83
教育出版	Springboard Lesson 1～6 Part 2	P.2～P.77

◆ 第2学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Unit 0～5	P.4～P.77
開隆堂	Classroom English PROGRAM 1～6 英語のしくみ ③	P.6～P.61
学校図書	Pre-lesson Lesson 1～5	P.6～P.75
三省堂	Lesson 1～6 Review	P.6～P.79
教育出版	Lesson 1～6 Part 2	P.4～P.69

◇ 第1学年 《取り扱う言語材料》

○ 単文	○ 肯定及び否定の平叙文 (現在形)
○ 疑問文のうち、動詞 (現在形) で始まるもの、助動詞 (do, does) で始まるもの及び疑問詞 (what, who) で始まるもの	*ただし、How about you? の表現を含む
○ 名詞の単数形及び複数形	○ 文構造
➢ [主語 + 動詞]	➢ [主語 + 動詞 + 補語] のうち、主語 + be動詞 + {名詞 代名詞 形容詞}
➢ [主語 + 動詞 + 目的語] のうち、主語 + 動詞 + {名詞 代名詞}	○ 代名詞
➢ 人称、指示、疑問を表すもの	○ 動詞の時制など
➢ 現在形	○ 音声に関するもの

★ 第1・2学年とも出題は《出題範囲を取り扱うページ》から行います。ただし、文法事項については、《取り扱う言語材料》に記載しているものとします。

◇ 第2学年 《取り扱う言語材料》

○ 単文、重文及び複文	○ 肯定及び否定の平叙文
○ 肯定及び否定の命令文	○ 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞 (can, doなど) で始まるもの、orを含むもの及び疑問詞 (how, what, when, where, which, who, whose) で始まるもの
○ 文構造	➢ [主語 + 動詞]
➢ [主語 + 動詞 + 補語] のうち、主語 + be動詞 + {名詞 代名詞 形容詞}、主語 + be動詞以外の動詞 + {名詞}	➢ [主語 + 動詞 + 目的語] のうち、主語 + 動詞 + {名詞 代名詞 to不定詞}
○ 代名詞	➢ 人称、指示、疑問、数量を表すもの
○ 動詞の時制など	➢ 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形及び助動詞などをを用いた未来表現
○ to不定詞	○ have to, don't have to
○ 音声に関するもの	

※第1・2学年とも上記以外のページにある資料 (年表、演習、コラムなど) で、上記出題範囲の内容であるものも含みます。

日々の学習や苦手分野の復習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課のウェブサイト
に復習教材として掲載していますので、ご活用ください。

☆ 復習教材 http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/r01_3_fukushu.html

大阪府公立高等学校入学者選抜調査書評定の府内統一ルール (1・2年生) について

- 府教育委員会は、各学年の2学期末までの府内公立中学校の評定の状況と、1月に実施するチャレンジテストの結果を使って、各学年の「府全体の評定平均」を定めます。
- 各中学校は、1月に実施するチャレンジテストの自校の結果と府全体の平均とを比べて、自校の各学年の「**評定平均の範囲**」を算出します。

【例】中学1年生の府全体の評定平均が3.36の場合の「**評定平均の範囲**」

	X中学校	Y中学校	府全体
中1チャレンジテストの平均得点	57.0点	63.0点	60.0点
中1チャレンジテストの対称比 [A]	0.95	1.05	1.00
評定平均の目安 [B] (「府全体の評定平均」× [A])	3.19	3.53	3.36
評定平均の範囲 [(B) ± 0.3]	2.89～3.49	3.23～3.83	—

- 各中学校は、自校の各学年全体のチャレンジテスト実施教科 (中学1年生は3教科 (国、数、英)、中学2年生は5教科 (国、社、数、理、英)) の評定の平均と、②で求めた「評定平均の範囲」を比べ、適切な評価が行われているか検証します。「評定平均の範囲」に収まらない場合は、評価の方法の見直しを行った上で、評定をつけます。

※事業の一部 (調査問題の配送・回収、採点・集計等) は、大阪府教育委員会が民間機関に委託して実施します。